

# ひがし北海道ブランド化

釧路

## 推進協議会 村尾氏、構想を提案

釧路、根室、十勝、オホーツクの4管内を「ひがし北海道」の名称で国内外に広めようと活動する「ひがし北海道ブランド化推進協議会」（小船井修一会長）は14日、釧路プリンスホテルで「ひがし北海道未来予想図お披露目式」を行った。同協議会と共にひがし北海道ブランド化に取り組むスターブランド（東京）の村尾隆介氏が、オンラインによる市民大学など釧路での地域ブランディング構想を提案した。

（石川直樹）

同会は2019年3月に市民有志が設立。現在会員は53団体、顧問を含め個人会員は13人が登録している。釧路をはじめ道東地域が抱える課題として、本州や海外の人に場所を認知されていない点を挙げ、北海道のどこに位置するのか、日本語でも英語でも分かりやすく伝わる言葉として「ひがし北海道」を地域ブランドとしてアピールすることを目指している。事務局の木下正明鳥取神社宮司はこの一年、地域ブランディングに実績があるスターブランドの村尾氏と連絡を

取り合ってきたという。開式に当たり乗山徹副会長が「地域ブランドの定着には時間がかかるが、一歩ずつ進めていくことが大事」と述べ、来賓の蝦名大也市長は「世界に通じるツールとしてひがし北海道ブランド化に期待する」とあ



『母道』この後、基調講演を行った村尾氏は、自動車メーカー本田技研工業に入社以

「ひがし北海道」のロゴの横で地域ブランディング化構想を語る村尾氏

来、ブランディングに取り組んできた自身のキャリアを振り返りながら、特に人を振り返りながら、特に人口約7000人の山形県朝日町に移住して取り組んだ地域ブランディング化の成功事例を紹介。パッケージデザインの統一、オンライン市民大学などたたき台の構想をまとめた「ひがし北海道に関するブランド戦略レポート」（28頁、カラー）と題する小冊子を出席者に配布した。続くセミナーでは、M&T特許事務所（東京）の谷口誠弁理士が、地域ブランド創出がなぜ重要なのかをテーマに講演した。

事務局の木下宮司は「昨年7月から頻りに連絡を取

り合い、月に一度のスーム会議も継続している。具体的な地域ブランド化構想を提言いただき、まずは道東という言葉をもひがし北海道として表現してもらおうことを、可能なところからお願いでいきたい。村尾さんとのパートナーシップを地域発展の起爆剤にしたい」と話している。

**フリーローン取扱中!**  
**最大800万円まで**  
 いつまでも 地域とともに  
**しんくみ**  
 釧路信用組合  
 ☎(0154)22-3161

※ご融資には審査が必要です。お申し込みによりご希望に添えない場合がございます。詳しくは貸付窓口にて